

EUROBIKE 「DEMO DAY 2011」 参観報告

今年で5回目の開催となるEUROBIKE関連催事「DEMO DAY」は、EUROBIKE 展開催前日の8月30日（火）に昨年と同じくアルゲンブールで行われた。当日はよく晴れた暖かい1日であり、試乗に適した天候となった。当日の来場者は昨年より380人多い前年比26%増の1,840人となり、天候が不安定で来場者の大幅な落ち込みを見せた昨年からは回復の兆しを見せた。出展社は前年比6.4%増の116社となり、年々確実に増えている。



会場の様子

【 DEMO DAY 2011】

- ・開催日時： 2011年8月30日（火）
10:00～17:00
- ・会場： アルゲンブール（Argenbuehl）
- ・出展社数： 116社
（2010年109社、2009年92社）
- ・来場者数： 自転車販売店等1,840人
（2010年1,460人、2009年2,310人）

この「DEMO DAY」はインターバイク（米国・ラスベガス）の「OUTDOOR DEMO」と同様、「展示会場から離れた郊外で、実際に自転車に試乗できる。」といったコンセプトである。EUROBIKE主催者は5つのコース設定を行い、各出展社は最新のロードバイク、MTB、電動自転車（電動アシスト自転車含む）、折りたたみ自転車やリカンベントなど様々な車種の試乗車を用意した。

「DEMO DAY」の会場は大きく2つに分けられ、合計116社が出展するテントによる展示会場と5つの試乗コースとなっている。主な来場者は自転車販売店、報道関係者及び展示会出展社であり、EUROBIKE展の出展社パスがあれば入場は無料である。

「DEMO DAY」が開催されたアルゲンブールは、主に牛と馬が放牧された牧場からなる普段はのど

かな町であるが、この日ばかりは町の臨時駐車場は、「DEMO DAY」の来場車の自動車で溢れかえっていた。自家用車以外で現地にアクセスするためには、展示会場と試乗場所を結ぶ専用シャトルバスが用意されていた。

当日、シャトルバスはメッセ会場から 20 分毎に出発予定であったが、高速道路において渋滞が発生する等してバスの運行は混乱していた。そのため、シャトルバスの代わりに展示会場から EUROBIKE のスタッフ車に分乗してアルゲンブールに向かい約 50 分かかった。帰りのシャトルバスも混乱は続き、スタッフ自身も状況を把握しておらず、多くの来場者とともに帰路もバスを待たなければならなかった。そのバスを待つこと約 1 時間で、ようやく待望のシャトルバスがやってきた。バスは渋滞を避けるため高速道路を使わず、郊外の一般道を縫って展示会場に向かい、所要時間は約 1 時間。結局、シャトルバス関係だけで 3 時間程度を費やし、今回は催事運営面で課題を残した。



牧草地帯の試乗コース



市街地のコース

今年の「DEMO DAY」の大きな特徴は「自転車と電子技術とのより一層の融合」といえる。試乗車で目に付いたのが電動自転車（電動アシスト自転車含む）であった。数年前までは、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）素材が注目された。特にロードバイク、MTB やホイールに用いられ、それらの軽量化と機械加工とは異なるデザイン性の追求に業界は走った。ところが近年、業界が目をつけたのは「スポーツ」ではなく、「街乗り」の 카테고리である電動自転車であった。電動アシスト

自転車は日本ではよく見る車種となったが、欧州ではこれから成長が見込める分野である。異業種のメーカーも参入し、市場での競争がますます激化していく恐れもある。

もう一つの傾向は電動シフトである。シマノのロードバイクの最上級モデル Dura-Ace に加え、2011 年モデルの ULTEGRA で電動シフトモデルが発表された。カンパニョーロもプロトタイプながら既に電動シフトを発表している。その他に GPS やサイクルコンピューターなど、「サイクリング」や「健康」といったニーズから発生した用品のテクノロジーは、ますますの発展も見込まれる。

最後に、決して欧州全体の経済状況はよいとは言えず顧客の購買力にも限界がある。今後、電動自転車などの新しい市場の拡大は、いかに魅力的な商品をメーカーが消費者に提供できるかという点につきると思われる。



シマノ・電動シフト試乗車



ポッシュの電動ユニット

以上

(国際事業部)